

平成 28 年度和歌山県高等学校バドミントン新人大会

於 田辺スポーツパーク体育館

1部：2年生及び1年生の近畿大会出場者・希望者
2部：1年生

1月12日(木)・13日(金)

【1部男子ダブルス】

浪江利貴(2D)・吉本柁斗(2E) **ベスト8**

2回戦 対 那賀高校 2-0 [23-21/21-10/-]
3回戦 対 和歌山北高校 2-0 [21-6/24-22/-]
4回戦 対 神島高校 0-2 [16-21/9-21/-]



【2部男子ダブルス】

榎本翔太(1H)・吉田伊吹(1B) **ベスト8**

2回戦 対 星林高校 2-0 [21-7/21-10/-]
3回戦 対 神島高校 2-1 [21-16/12-21/21-18]
4回戦 対 星林高校 1-2 [20-22/21-18/20-22]



1月13日(金)・14日(土)

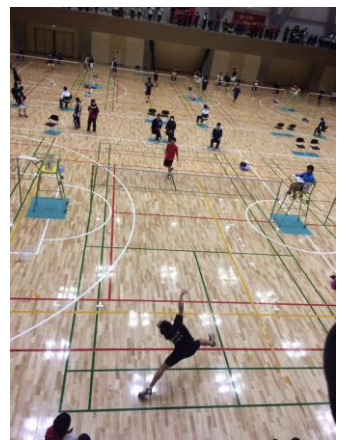
【1部男子シングルス】

吉本柁斗(2E) **ベスト8**

1回戦 対 粉河高校 2-1 [21-12/18-21/21-13]
2回戦 対 神島高校 2-0 [21-19/21-15/-]
3回戦 対 海南高校 2-1 [21-14/13-21/21-16]
4回戦 対 星林高校 2-0 [21-14/21-17/-]
5回戦 対 那賀高校 0-2 [14-21/9-21/-]

浪江利貴(2D) **ベスト16**

1回戦 対 神島高校 2-0 [21-15/21-16/-]
2回戦 対 粉河高校 2-0 [21-11/21-10/-]
3回戦 対 星林高校 2-0 [21-10/21-15/-]
4回戦 対 那賀高校 0-2 [22-24/9-21/-]



【2部男子シングルス】

多瀬茉莉都(1A) **ベスト8**

2回戦 対 和高专高校 2-0 [21-6/21-8/-]
3回戦 対 神島高校 2-0 [21-14/21-14/-]
4回戦 対 近大附和高校 2-1 [21-17/17-21/21-10]
5回戦 対 近大附和高校 0-2 [11-21/9-21/-]



今回の新人大会に1年生は2部で入賞(ベスト4以上)を、2年生は8月の近畿予選会以上の結果を出すことを目標として臨み、また高校生活最後の大会である総体予選会に繋げるためにも、非常に重要な意味を持つ大会でもありました。

会場となった田辺スポーツパークでは、今まで何度か練習したこともあり、冬休み中も多くの先輩方などに指導していただき、大会前には一人ひとりが「勝つ」という強い気持ちと自信は持っていたように思います。僕達2年のダブルスも初戦から強敵(近畿予選会ベスト8)だと分かっており、11月の近畿大会では果たせなかった「自分達らしいプレイ」をどれだけできるのかによって、勝敗は左右される状況でした。でも、これまで支えてくれた人達への恩返しをするためにも、良い試合をしようという強い気持ちを持ってコートに入ると、過去の大会ではなかなかできなかった「自分達らしいプレイ」をすることができ、見事初戦を突破することができました！ その後もその気持ちを持ち続け、ダブルス・シングルスともに、近畿予選会以上の結果を残すことができました。

しかし、ベスト4以上の入賞を狙っていた1年生はコートに入ると、緊張からか、どうしても気持ちの弱さが出てしまい、今まで負けたことのない相手に負けてしまったり、ミスが止まらなかったり…と大会本番で力を発揮することができませんでした。こういうコントロールができないことは、大会では十分に考えられることです。結局1年生は、目標としていた入賞には届かず、試合内容としても、いい評価はできないものでした。

高校からバドミントンを始めた初心者にとっては、この新人大会は誰もが目標とする大会です。1年生も同じ気持ちだったはず。負けるつもりでコートに入った訳ではないと思います。でも、どれだけ強い気持ちを持っていても、大会本番で力を出し切るということが、どれほど難しいことなのかを、今回の大会を通して1年生は、今まで以上に実感できたはず。昨年の僕達も同じでした。でも、あの時の負けがあったからこそ、今の成長に繋がっていると言えます。

大会終了後、ミーティングを行い、一人ひとりが気持ちを切り換え、新たなスタートを切っています。

2年生にとっては、次の大会が最後の大会となります。今回の新人大会は、最後の総体予選会に向けての1つの通過点の大会と位置づけ、新たな課題も見つかった大会となりました。総体予選会では、先輩方の結果に近づき、または超えられるように、…そして何より「やり切った」と笑顔で言えるように、残された時間を大切にしながら、日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。これからも応援よろしくをお願いします。

バドミントン部 キャプテン 浪江 利貴